

二〇二三年度

トキワ松学園高等学校入学試験

**国語第一回**

問題用紙

受験番号

開始と同時に受験番号を  
書き入れなさい。



次の①～⑤の——線のカタカナを漢字に直し、⑥～⑩の——線の漢字は読み方をひらがなで答えなさい。

- ① 空気がカンソウしている。
- ② テイサイを整える。
- ③ ヘイオンな日常を大切にする。
- ④ 彼女は時代のセンタンを行く人だ。
- ⑤ 互いにジヨウホして意見がまとまった。
- ⑥ 新旧の過渡期で不安定な状態だ。
- ⑦ 細菌が繁殖する。
- ⑧ 日本記録を更新する。
- ⑨ 耐熱ガラスの皿で調理した。
- ⑩ 会議の詳細な報告をする。

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。(問いの下の数字は、本文での行数を示します。)

哲学とは物事の本質を探究する学問で、その答えは人によって変わってくるということを前に紹介したと思います。自由の本質も人によって変わるから、アメリカでは対立が生じ、a だけどその考えの違いをすり合わせることで一緒にやっていけるといふ話です。

逆にいうと、哲学をすることによって初めて、私たちは自分なりの独自の答えを持つことができるのです。まずはそのことの大切さについてお話したいと思います。

ちょっと考えてもらいたいのですが、もし誰もが同じ答えしか持たなかったら、いったいどうなるでしょう？ 便利？ まあ、いちいち話し合わなくてもいいという点ではそうですね。でも、問題はその同じ答えをどうやって手に入れるかです。それぞれが考えた結果、偶然同じ答えを持つというならまだいいでしょう。それでも問題はあります。

しかしそうじゃなくて、誰かに仕組まれて同じ答えを持った場合や、誰かに強制されて同じ答えを持つような場合は問題ですよ。それでもみんなが同じ答えしか持っていないなら、もう選択肢はありません。たとえそれが間違っていたとしても。歴史上そういうことが実際に起こりました。全体主義と呼ばれる<sup>1</sup>状況です。

第二次世界大戦以後の世界で、意見を持つということについて話す時、それは最も警戒されて来た事柄であるように思います。 A、みんなが同じ答えを強要される全体主義が、いかに恐ろしい結果をもたらすか、誰もがよくわかってるからです。

いったんそんな体制や仕組みができあがってしまうと、もう誰も止められません。最初は恐怖によって同じ答えを持つ

ようにされていたのが、次第に誰も疑問を持たなくなって、それが当たり前になってしまいうからです。

多くの人がナチスドイツを思い浮かべていることと思いますが、日本もそうだったのです。ドイツ人も日本人も知性のある素晴らしい国民です。にもかかわらず、<sup>①</sup>そんなふうになってしまいう点に全体主義の恐ろしさがあります。

とはいえ、それらは何らかの強制があったからだと思う人もいるかもしれません。たしかにそれもあるでしょう。でも、<sup>②</sup>仮に何の強制がなかったとしても、やはり皆が同じ答えしか持っていない状況はよくないといえます。

B、偶然みんなが同じ答えを持ったとしましょう。それだけなら一見何も悪いことはなさそうです。ただ、いつもそうだとすると、やはり問題が生じます。それでは発展が見込めないからです。

常に何らかの否定の契機（きげき）がないと、物事は発展しないのです。そういう反対の契機のことをアンチテーゼと呼んだりします。言葉くらいは聞いたことがあるでしょうか？ 近代ドイツの哲学者ヘーゲルが唱えた「弁証法（べんしょうぽう）」においては、アンチテーゼという反対の事柄や問題を克服して初めて、物事は発展すると考えます。

民主主義に置き換えると、少数者の声に耳を傾けることで初めて、社会は真の意味で全員にとっていいものになるという発想です。だからそれぞれが異なる答えを持つべきなのです。

私たちはもつとそれぞれが持つ意見③というものの力を見直すべきでしょう。たとえそれがたった一人の意見であつたとしても、いや、たった一人の意見だからこそ重要なのです。映画『二人の怒れる男たち』では、陪審員（ばいしんいん）のうちたった一人の意見が、<sup>④</sup>徐々に全員の意見を変え、一人の少年の人生を救うことになります。①

実は、これが社会を変えてきた多くの出来事の特徴でもあるのです。意見が社会を変えてきたのです。誰も何もいわなければ、何も変わらないのですから。いっても同じだとか、何も変わらないという声をよく聞きます。たしかにそうかも

しれません。でも、そうやって本当に誰もが口をつぐんでしまったら。永遠に変わるきっかけを持つことさえないでしょう。自分だけいっても仕方ないかもしれませんが、自分がいわなければ変わらないということもまた同じだけ真理であることを、私たちは肝に銘じておくべきです。②

その際、人と同じことをいっても意味がありません。最後に多数決で決める時は別ですが、議論する時はほんの少しでも異なることをいする必要があります。そうでなければ、わざわざ発言する意味がないからです。まったく同じなら、まったく同じですとすなずいておけばいいのです。

ただ、それが積み重なるとみんな同じということになりかねないので、少しでも違うことを付け加えた方がいいでしょう。④  
だいたい、人生も違えば身体も違うのだから、一字一句まったく同じ考えにはならないはず。意見は「X」で見であるべきだというのは、まさにその通りです。

もしかまったく同じだとしたら、それは考えることをさぼっているかと思えません。あるいは、勇気か情熱のいずれかを欠いているか。もう一度『二人の怒れる男たち』に立ち返りましょう。

唯一最初から少年の無罪を主張していた建築家には、勇気と情熱がありました。人とは違う意見をいう勇気、そしてそれを訴える情熱です。この情熱が、怒りをも生み出したのです。情熱は伝播するので、陪審員たちは皆情熱的になり、そして怒れる男たちへと変わっていきました。③

そうして考えた結果、意見は変わっていきました。そういうと、結局同じ意見になってしまったのだから、全体主義と同じじゃないかと思う人もいるかもしれません。はたしてそうでしょうか？④

『二人の怒れる男たち』は民主主義のお手本とっていいと思いますが、この場合はしっかり議論が尽くされていま

49

48

47

46

45

44

43

42

41

40

39

38

37

36

35

34

33

す。その結果、みなが同じ意見になったのです。全体主義の場合はそうした議論の機会は一切ありません。そこは大きな違いです。きちんと議論する機会が確保されれば、おかしなことにはならないからです。⑤

つまり、おかしなことの可能性もちゃんと検討されているはずです。議論というのは、あらゆる可能性について検証するプロセスでもあるからです。「この場合はどうなりますか？」と反対意見をもった人がいうと、「その場合はこうなりませぬ」と答える。その応酬によって、問題点があぶりだされるのです。

その意味でも、<sup>⑤</sup>民主主義とは多数決のことではなく、そこに至る議論のことをいうのです。多数決は、時間が限られていることからやむを得ずとられる技術的な措置にすぎません。だから時間が許せば、あるいは状況が変われば、私たちはまた議論を再開すべきなのです。そのためにも、自分の意見を持つことは永遠に求められるとあっていいでしょう。

ここまでのところで何度か課題解決ということに触れてきましたが、「自分なりの答え」を見つげるための目的の一つとして、また手段の一つとして、今注目が集まっている課題解決型授業についてお話しておきたいと思えます。

皆さんは<sup>⑥</sup>社会課題の解決という言葉聞いたことがあるでしょうか？ 今世の中には課題が溢<sup>あふ</sup>れています。少子高齢化、環境問題、エネルギー問題、災害、格差、大都市への一極集中、そしてパンデミック等々。いずれも社会の問題です。

そう、かつてはこれらは社会問題と呼ばれていました。 C 最近では社会課題という言葉を使うようになって

たのです。なぜだと思えますか？ 問題と課題はどう違うのか。実は課題という言葉は、「やるべきこと」としてとらえ

られています。ですから、社会問題というと、こんな困ったことがあるというのを認識する段階で終わっていたのですが、社会課題というと、社会がなんとかして解決すべき問題としてもっとポジティブにとらえ直すことができるわけです。

これは日本に限った話ではなくて、<sup>⑦</sup>国連でもSDGs (Sustainable Development Goals) D 持続可能な

開発目標を定め、社会課題の解決に取り組むように呼び掛けています。そのために、二〇三〇年を期限として、先進国を含む国際社会全体で十七の開発目標を掲げているのです。

こうした社会課題を解決するにはどうしたらいいか？ それには行政はもちろんのこと、個人も企業も地域社会も、みんなが一体となって取り組むことが求められます。なぜなら、社会課題というのはみんなに関係することだからです。それはみんなが従わなければいけないという消極的な意味を超えて、もつと積極的にみんなが知恵を出し、取り組みにかかわっていかなければならないことを意味します。

#### E

教育の現場でも、今社会課題の解決を念頭においた授業が増えつつあります。二〇二二年度からは、学習指導要領の改訂によって高校では「総合的な探究の時間」が導入されます。従来の「総合的な学習の時間」が新しくなったものです。

これまでも総合的な学習の時間を使って、地域の問題などについて考えてきたという例はあったと思います。でも、そこをもっと明確にして、「探究の見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行うことを通して、自己の在り方生き方を考えながら、よりよく課題を発見し解決していくための資質・能力」を育成することに目標を置いています。

ここにははつきりと課題を解決していくと表現されていますよね。そうすると、総合的な探究の時間だけでなく、学校で学ぶことも大きく変わってくると思います。なぜなら、今まではあまりそういうことを意識しては来なかったからです。

数学や国語、そして社会や理科でさえも、知識を学んで、それがなんとなく社会に出てから役立つみたいで教えられるのだと思います。実際、何が役に立つかなんてわからないので、幅広くとにかく知識を身に付けておくしかなかったわけです。

社会に出るとわかりますが、それは事実で、色んなことが役立つことに気づきます。「あ、昔教科書で勉強したあの知識は、このことだったのか」と感じる瞬間が何度もあります。そのたび、「もつときちんと勉強しておけばよかった」と反省することになるのです。

大人のための学び直しの本などが世の中にたくさん出回っているのは、そう感じる人が多い証拠だと思います。今まではそれでもよかったのかもしれませんが、教育の中でも課題解決を目標に据えたからには、他の科目もそのための道具として位置づけなおす必要が出てくるはずです。

一気に変わることは<sup>2</sup>はないかもしれませんが、きつと先生たちもそのへんは意識し始めると思います。いや、皆さん自身がそういう意識で他の科目を見るようになるはず<sup>7</sup>です。逆にいうと、そういう実践的かつ積極的な目で教科をとらえることができるようになるように、総合的な探究の時間があるのだと思います。

（小川仁志『中高生のための哲学入門―「大人」になる君へ』）

注1 弁証法（24）…対話などを通して物事の真の認識を求めていく方法。

注2 陪審員（29）…一般市民の中から選ばれ、審判に立ち会う人。

問一 〜〜〜線 a〜e の言葉の本文中での意味として最も適当なものを、それぞれ次のア〜エの中から一つ選び、記号で

答えなさい。(2、23、35、64、73)

a すり合わせる (2)

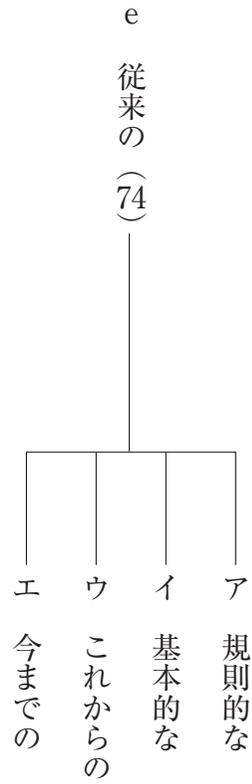
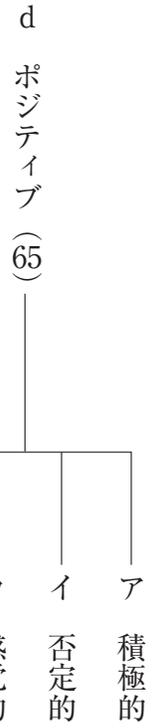
- ア 話し合って結論を出す
- イ 照らし合わせて調整する
- ウ 示し合わせて無視する
- エ 比べて違いをはっきりさせる

b 契機 (23)

- ア きっかけ
- イ 意味
- ウ 約束
- エ 動機

c 肝に銘じ (35)

- ア 心の中でつぶやく
- イ 心から深く納得する
- ウ 心に深くとめて忘れない
- エ 心をこめて説明する



問二 〓線1「れる」、2「ない」の用法と同じものを、それぞれ次のア〜エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

1

ア 幼いころが思い出される。

イ 先生が手紙を書かれる。

ウ 通行人に道を聞かれる。

エ 妹は早く起きられる。

(11、90)

ア あまり本は読まない。

イ 少しも笑わない。

ウ まだ映画は終わらない。

エ 日曜日の予定はない。

問三 空欄

A

く

E

に入る最も適切な言葉を、それぞれ次のア～カの中から選び、記号で答

えなさい。(13、21、62、66、73)

ア だから

イ つまり

ウ さて

エ ところが

オ なぜなら

カ たとえば

問四 —— 線①「そんなふうになってしまおう」とはどうなってしまうことですか。本文中の言葉を用いて説明しなさい。

(18)

問五 —— 線②「仮に何の強制がなかったとしても、やはり皆が同じ答えしか持っていない状況はよくないといえま

す」とありますが、なぜですか。理由を本文中から十字以内で抜き出して答えなさい。(句読点は含まない) (20)

問六 —— 線③「意見というものの力」とありますが、「意見」はどのような「力」を持っているといえますか。本文中の言葉を用いて説明しなさい。(28)

問七 —— 線④「それ」とはどういうことですか。本文中の言葉を用いて説明しなさい。(39)

問八 空欄 

X
---

 に入る漢字を次のア～エから一つ選び、記号で答えなさい。(40)

ア 位      イ 衣      ウ 委      エ 異

問九 —— 線⑤「民主主義とは多数決のことではなく、そこに至る議論のことをいう」とありますが、なぜですか。最も適当な理由を次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。(55)

ア 社会を大きく発展させるためには、議論の中で互いに意見を否定しあうことが何よりも必要であるから。

イ 社会のあるべき姿を示すには、社会に対する怒りを意見として言う勇氣と、その怒りを伝播させる場である議論が必要だから。

ウ 社会をよりよく変えるには、皆が自分の意見を述べて議論をし、あらゆる可能性を検証する必要があるから。

エ 社会を少しでも変えるためには、議論をすることで皆が同じ意見になることが絶対に必要になるから。

問十 ———線⑥「社会課題」と「社会問題」との違いはどのようなことですか。本文中の言葉を用いて説明しなさい。

(60)

問十一 ———線⑦「そういう実践的かつ積極的な目で教科をとらえる」とはどのようにすることですか。本文中の言葉を用いて説明しなさい。(91)

問十二 次の文章は本文中の①～⑤のどの後に入りますか。①～⑤の中から選び、数字で答えなさい。

(30、35、46、48、51)

逆にいうと、最初は考えることをさぼろうとしていたのです。実際、野球の試合を見に行きたいから早く終わろうといていた男もいました。ところが、次第にさぼることをやめ、考え始めたのです。本当は何が起こったのか、自分たちはどう判断するべきなのかと。

問十三 「全体主義」と「民主主義」の違いについて書かれた次の文の空欄にあてはまる語を本文中からそれぞれ五字以内で抜き出して答えなさい。(句読点は含まない)

全体主義は皆が 1 を強要され、議論の機会は一切ないのに対して、民主主義は議論の際にそれぞれが意見を出し、 2 の意見に耳を傾けることを重視する。

問十四 本文の内容についての説明として最も適当なものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア たとえ一人でも意見を出せば全員が心を動かされて、その意見にまとまっていくはずなので、意見を出すことは大切なことだ。

イ 議論をすることでおかしなことがないかを検討できるので、民主主義においては意見を出し合う議論が重要である。

ウ 社会の問題を解決するためには学校で幅広い知識を身に付けて、問題に向き合っていくことが何より大切なことだ。

エ 第二次世界大戦中、ドイツでは強制されて同じ答えを持ったが、日本では強制されずに偶然同じ答えを持つようになっっていた。

